

プロジェクトの概要

うべくるみ園の「入所部あゆむ」では、利用者の平均年齢は60歳と高齢化が進んでおり、障害者の身体機能維持は今後の生活を営む上で喫緊の課題であります。しかし聞き取り調査では、当施設では利用者の人数に比べ、健康運動器具や多種多様な余暇活動を行うためのレクリエーション用具の不足や老朽化により使用できる利用者の人数に限られており、そのため、これらの用具を寄贈することにより身体機能の維持を保ち、運動機能の廃用を防ぐことが可能となると考えます。またレクリエーション活動によりストレス解消に繋げ利用者のより安定した精神状態を維持し、充実した生活環境づくりに寄与できると考えて、本プロジェクトを行いました。

今回本プロジェクトで恩恵を受ける方々は、生活介護・施設入所支援 40 名。短期入所(ショートステイ)4 名。地域生活支援(日中一時支援)5 名の49名です

寄贈物品は、リハビリマット 2 枚、エアロビックスステップ 6 台、ボッチャボール 2 組、ボッチャ用ターゲットマット 2 枚、歩行補助手すり平行棒あゆみ 1 式、ソフトフォームボーリングセット 2 式、ターゲットゲーム 1 台です。

その他の事業として、

- 1) 2023 年 3 月 12 日開催された宇部市社会福祉協議会主催の宇部福祉まつりに参加し、会員所有の遊休品を持ち寄り、遊休品の販売を行い、売上金はすべて市の社会福祉協議会へ寄付しました。
- 2) 障害者の方々は普段専門医の検診を受ける機会が少ないため、疾病の早期発見がなされないことが多いと言われています。8 月 3 日うべくるみ園を訪問し入所者 40 名に耳鼻咽喉科の検診を当クラブの猪熊哲彦会員が行い、耳垢栓塞による外耳炎。鼻閉・鼻汁の原因であるアレルギー性鼻炎・副鼻腔炎の発見。睡眠時無呼吸症候群の診断等を行い、受診の動機付けになったようです。
- 3) 10 月 5 日、本施設長を例会に招き、卓話を実施し、障害者自立支援の現状などを勉強し、その後寄贈品の贈呈式を行いました。この贈呈式の模様は宇部日報社で、10 月 7 日の夕刊に掲載されました。



寄 贈 物 品



うべ福祉まつりバザーへ出店



耳鼻咽喉科 検診風景



うべくるみ園 施設長の卓話



贈呈式の新聞記事(宇部日報)